

阿賀野川
aganogawa E-toko dayori

えとこだより

ここにあるすべてを、
かけがえのない「宝もん」へ。



「五泉市のブランド芋『帛(きぬ)乙女』を栽培する巢本地区の畑。場所:五泉市一本杉/提供:中村吉則氏

もくじ

ロバダンナー特別レポート インフォメーション	8
SDGsをさぐる【公害編】	6
特集3 令和6年度パネル巡回展 ・阿賀野川流域地域 水と大地の	5
再生フォーラム(第12回)開催レポート	4
特集2 阿賀野川エコミュージアムを目指す流域	4
特集1 阿賀流域再発見・連続ツアー講座2024 ～阿賀野川流域のSDGsをさぐる～ 大地の豊かさを享受する、阿賀野川 中流域の持続可能な風土とは？	2

エスディー・ジーズ 阿賀野川流域におけるSDGs^(※1)への理解を深めるために

水と大地が織りなす風土の豊かさと
その影を探ることを通じて

F M事業^(※2)では、これまでの「阿賀野川流域の歴史や文化が織りなす光と影を踏まえつつ、流域での現在の暮らしや地域の未来」について模索しています。前年度は阿賀町を舞台に、「清らかな水を守り活かす、阿賀野川上流域の持続可能な豊かさ」を探りました。

今年度は舞台を五泉市・阿賀野市へと移して、中流域における「大地の豊かさ」に注目します。具体的には、中流域の大地が、上流域の大河や山々の影響も受けてどのように誕生したか、その大地の形成が現在の産業や暮らしにどのようにつながっているかについて皆さんとともに現地を巡って探ります。

一方、流域のSDGsを考える際に、避けて通れない影の部分が新潟水俣病問題です。そのため、今年度は、昭和30～40年代の流域における暮らしや、新潟水俣病のあらましについて、流域にお住まいの方々や公害運動の関係者への「ロバダンナー」(炉端談義を通じてお話を伺い、パネル展示として描き出すこと)で、阿賀野川流域におけるSDGsへの理解を深めたいと考えています。

※1「Sustainable Development Goals」(=持続可能な開発目標)の略称。詳細はP.2参照。 ※2「阿賀野川えとこだプロジェクト」のこと。詳細はP.8参照。